

各館だより 9 埼玉県立文書館

本館は昭和44年、県立図書館の内部組織として発足、すでに20年の歴史をもつにいたりました。この間、昭和50年に教育機関として独立、昭和58年には全国でも有数の規模をもつ現在の建物に移転しました。その施設は総床面積約6,500㎡、うち保存庫2,632㎡、保存棚の総延長は約20.57kmと保存機能の充実に努めています。保存に万全を期するため一般の保存庫のほかにフィルムテープ保存庫、貴重文書保存庫を設置しています。



収蔵資料は大きく県行政文書と古文書(民間史料)にわけられます。県行政文書は明治初年以來の約6万冊を収蔵しています。永年保存文書は保存期限10年を経過した後、本館に移管・公開されます。また、有期限保存文書についても歴史的・文化的価値を有するものの収集に努め、一般利用に供するための整備検討を進めています。一方、古文書は個人や団体から寄贈・寄託を受けた文書で約32万点に及んでいます。中世から現代まで広い時代にまたがっていますが、中心は近世・近代の農村文書です。最近では近現代史料の収集も多くなっています。これらは整理の終了次第、公開しています。その他、戦中戦後行政文書や大名文書等、マイクロフィルムによる収集・複製本化も行っており、順次、利用に供しています。

また、展示・講座・講習会等の教育普及事業にも力を入れ、利用の促進、保存の重要性の啓発、生涯学習の場の提供に努めています。

(太田 富康)